



あけぼの作業所・生活介護事業部では、杉並区役所様から花壇のお仕事をご依頼いただきました。日日草とジニアを280苗用意し、何度も通って良い土壌を作った花壇に植えることができました。

日頃は、社会福祉法人いたるセンターに多大なるご支援ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、7月10日現在、新型コロナウイルス感染症拡大下のなか、当法人ではご利用者様および職員についても、感染者は1名も出ていない状況です。

現在、日本では東京を中心に新型コロナウイルス感染症が増え続けており、第二波の襲来も予測されますが、すべてのサービス事業所において、これまでも増して感染予防の徹底を促していきたいと考えます。皆様におかれまして、新しい生活様式を継続され、新型コロナウイルス感染症への罹患がないよう、願っております。

社会福祉法人いたるセンターの各事業部については、厚生労働省および東京都福祉保健局の事務連絡や通達等を周知徹底するとともに、施設に出入りするすべての人に対する手指消毒や体温測定、換気、利用自粛等を行い、三密を避けた感染リスクの低減に努めてき

ました。健康管理と衛生管理、感染予防を徹底して行ってきた職員およびご利用者様、保護者の皆様に、心から感謝している次第です。

新型コロナウイルス感染症の脅威は、緊急事態宣言が解除された今も続いています。復活に向かうための長い道のりは始まったばかりです。一人ひとりの行動自粛をはじめとした社会全体の行動変容が不可欠となったことで、環境・社会・経済の相互依存関係をもう一度見直し、より健全な生き方や働き方が問われています。

インド・ニューデリーの大気汚染濃度は、昨年は68%だったのに比べ、今年は17%まで下がり、韓国でもPM2.5（大気汚染を示す小粒子状汚染物質）レベルが、前年に比べ54%も減少しました。中国等の工場がロックダウンによって操業停止となり、大気汚染が劇的に解消したことは、驚きでした。地球の持つ回復力を目の当たりにし、自然との共生の大切さも強く意識させられました。

こうしたウイズ・コロナ時代を迎え、私たち社会福祉法人に求められる役割は何か。それは、社会的弱者（障害者・高齢者・乳幼児・引きこもり・不登校生・生活困窮者など）を、さまざまな脅威から守るとともに、それぞれの思いを尊重しながら、いかにサポートしていくかに尽きます。

「自立と共生を求めて 個性が響き合う しなやかな社会」を目指す、という社会福祉法人いたるセンターの理念は、新型コロナウイルス感染症拡大で傷ついた地域社会の再生に向けた、まさに時代を先取りした不変の理念です。「未来に向けて、しなやか（レジリエント）な地域共生社会を実現し、社会的弱者を一人も取り残さないよう支援していく」ことを指針として邁進していきたいと思っております。

これからも、社会福祉法人いたるセンターに、変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくごお願い申し上げます。

ウイズ・コロナ時代のいたるセンターの指針

社会福祉法人いたるセンター 理事長

谷山 哲浩

目次 contents

- 01 ウイズ・コロナ時代の社会福祉法人の指針
谷山哲浩理事長
- 02 施設長に聴く・新型コロナウイルス感染症拡大に
- 03 ともなう施設運営
- 04 * 阿佐谷福祉工房
* あけぼの作業所
* 目黒本町福祉工房
* イタル成城
* 包括ケアセンター・グループホーム
* 包括ケアセンター・サポートウイズ
* クローバー・マルコ
* パン工房ブクブク
* いたる相談室
* ビヨビヨおうちえん
* SDGs推進室
* 法人本部
PLAIN ART展について
法人見学ツアーについて

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では、「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費 10,500円（何円でも可）
郵便振り込み 001107128992
（間）330927346 事務局山本まで

施設長に聴く

新型コロナウイルス感染症拡大にともなう施設運営

阿佐谷福祉工房

施設長 池田 佳津男

I 簡単な施設紹介

阿佐谷福祉工房は生活介護（定員40名、在籍45名）、就労継続支援B型（定員20名、在籍20名）の二つの事業を行う通所施設です。

II 感染拡大防止のための対応

ご利用者様や職員の手指消毒の徹底、毎朝の体温測定、活動室の窓を開けて換気を実施、施設への入場制限、食堂では椅子を間引いて利用者数を制限する等の対応をしています。また、1日当たりの登所者数を減らすことで、密を避けるようにしま



手指消毒&入館規制



した。ご利用者様ならびにご家族のご協力に改めて感謝致します。

III 今後の対応

通常運営に戻った後も感染防止対策は継続して実施します。活動スペースが狭いので、密を避けることの限界はありますが、出来る限りの対応をする予定です。

あげぼの作業所

所長 高木 知子

あげぼの作業所は、生活介護・就労継続B型の多機能型であり、82名のご利用者様が通う施設です。緊急事態宣言中は、全員のご利用者様に出来る限りの自粛をお願いし、GH入居で必要度の高い方を中心に公共の交通機関を利用しない通所をして頂きました。

在宅支援は、各事業部でワークシートを作成し、毎日電話で在宅ワークの進捗状況・体調確認、必要な方へは訪問による支援を行いました。

ご利用者様降所後は、職員全員



ロッカーや椅子も消毒を徹底



で施設中の消毒を行い、今後も気を緩めることなく、一人も感染しないことを目標に運営して参ります。

目黒本町福祉工房

施設長 五木田 義之

目黒本町福祉工房の感染予防の取り組み

おかげさまで目黒本町福祉工房は一日も閉めることなく、利用自粛は多い時でも3割程度に抑えて、皆で協力し運営を続けています。感染予防のため、検温・消毒・換気、この3つを、工房と各ご家庭、またバス・給食等委託業者としっかり連携し、徹底してきました。特に手すりやドアノブなどの日常的な除菌



アマビエをデザインしたグッズ

清掃などは清掃委託業者をお願いをしているおかげで、ご利用者様に変わが見られる場合には、個別対応するなど支援に専心することが出来ています。

またこんな世の中を少しでも明るくしたいとの思いから、江戸時代後期に今の熊本地方の言い伝えで、疫病退散・病魔調伏の力を「アマビエ」様にお借りし、生活介護ご利用者様のデザインをモチーフとして使用しました。現在のゆるキャラにも通じる癒しの効果も期待しています。ご自宅で鑑賞されても良し。お札代わりに持ち歩か

れるのも良し。さんまるしえ等に絶賛発売中です。

イタール成城

施設長 森川 正

イタール成城は、世田谷区の生活介護、短期入所、グループホームの3事業一体運営施設です。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4月中旬より通所生活介護ではなるべくご自宅まで過ごして頂くご協力も仰ぎました。「リモート」という言葉が社会的にも浸透しましたが、イタール成城でもご自宅にいながら支援員や仲間たちと顔の見える交流の為、「リモート支援」の一環としてSkypeやZoomをご自宅とつなぎ、安心感のある日常のために行いました。

短期入所みつばちは緊急度を変更するご利用者様の受け入れのみとして、緊急支援の度合いが増した日々です。グループホームバンブルは他の通所先等の自粛要請にも合わせ、日中をホームで過ごすご利用者様が増え、日中支援の充実

も考慮し日々過ごしています。

今回の自粛期間、特に、健康管理と感染予防を徹底し、自粛等、普段とは違った生活リズムにも気を配った支援を心がけました。今後は徐々に通常の活動に戻ることをめざし、新しい生活様式も意識しながら、再び活力ある元気なイタル成城の毎日を取り戻していきたいと考えています。

包括ケアセンター
グループホーム事業部
ゼネラルマネジャー 白瀬 則男

グループホームは杉並、練馬、世田谷区に14ホーム(20ユニット)あり、100名の方が生活の場として利用されています。

グループホーム本部で、マスク、アルコール消毒液等を用意して各ホームに配布したのですが、コロナ対策用の物品がなかなか手に入らず苦労しました。ホームではスタッフ、ご利用者様が手指消毒、うがい、出かけるときのマスク着用を徹底しました。

グループホームは住まいの場ですので職場が自粛となった場合はホームで過ごすことになり、帰る家がある方は自宅に帰られた方もいましたが多くの方がホームで過

ごしました。普段、日中は職員を配置していませんが支援のため的人员が必要になり、また職員が発熱等で体調が悪くなった場合は出勤停止としたため、シフト調整で苦勞し毎日二喜一憂していました。

幸いにも他の事業所より応援をいただき無事乗り越えることが出来、6月より通所先等も平常に戻りつつあります。

包括ケアセンター
サポートウイズ
マネジャー 塚田 充昭

包括ケアセンター・サポートウイズは、移動支援、居宅介護支援、訪問看護等のサービスを提供しています。新型コロナウイルス感染症拡大にともなう緊急事態宣言下では、移動支援はグループホームご利用者様を中心に、週末の外出をサポート。居宅介護支援では、モニタリング訪問の自粛要請のため電話によるモニタリングを実施。訪問看護では、スタンダードプリコーション(標準予防策)を徹底し、法人内グループホームや自宅への訪問のほか、医療的ケア

の勉強会や症例検討会等を実施し、個々の看護技術や知識を共有しました。



訪問看護のサービス提供時も万全の予防対策を取りました

クローバー・マルコ
施設長代理 仙石 宏樹

クローバーは杉並区を中心として隣接3区で受給者証をお持ちのご利用者様に短期入所のサービスを提供させていただいております。杉並区のご利用者様においてのみ、日帰り短期入所のサービスも提供させていただきます。この度の新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策としては、入所時の検温(37.5度以上の方は入所をご遠慮いただいております)、除菌の徹底、入所後のこまめな検温を行い、利用中はご利用者様同士の密を避けるために食事の時間をずらした

り、なるべく個室で余暇を過ごしていただくよう、室内の娯楽設備を充実させるなど工夫をしております。

パン工房プクプク
統括施設長 荒川 善夫

【新】A型事業部
「新型コロナウイルス感染拡大にともなう施設運営、その対応と取り組み」について

新A型事業部はパン事業とチョコ事業を就労継続支援A型として運営しております。店舗数は4店舗です。パン事業が2店舗(荻窪本店、三鷹店)チョコ事業も2店舗(浜田山店と荻窪店)です。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う施設運営ですが、各事業によって対応が大きく分かれました。パン事業はご利用者様の大半が利用自粛されましたが、チョコ事業はご利用者様全員が休みなく店舗に通ってくれました。対面販売を基本として行っている関係で感染拡大が危惧されましたが、お陰様で一人の感染者も出さずことなく今日に至っております。対策として行ったことはありきたりの事ばかりですが、食品を扱う事業でありますので細心の注意をはらって事業運

営させていただきました。コロナ禍の中来店者数が減少いたしました。製造に重点を置いて就労支援をさせていただいております。パンにつきましても、来店者数は減少しませんが3分の1となったほか、外販が全くできずに大きな打撃となりました。その中においてご利用者様が一人の感染もなく過ごせたことが何よりであると思っております。今回の感染による教訓を次に生かしていきたいと考えています。

いたる相談室
室長 佐藤陽子

- ① いたる相談室は、障害福祉サービスをうまく活用していただくための手続きをサポートをさせていただきます。
- ② 定期的なモニタリングで、作業所やグループホームなどに訪問するのですが、新型コロナウイルスの影響で訪問ができなくなりました。そのため、電話でのモニタリングとなっています。
- ③ 障害をお持ちの方にとっても、生活のリズムが変わること、外出ができないことはストレ



在宅での充実した保育支援を実施しました

ピヨピヨおうちえん両園の在宅支援の取り組み

臨時休園中のご家庭のお子様の様子や健康状態を把握するために往復葉書を活用しました。

家庭でのエピソードや保護者様の気持ちを知る事が出来て良かったです。またレターパックに給食レシビやお家で親子で楽しく過ごせるアイデアグッズ等、保育者の想いを

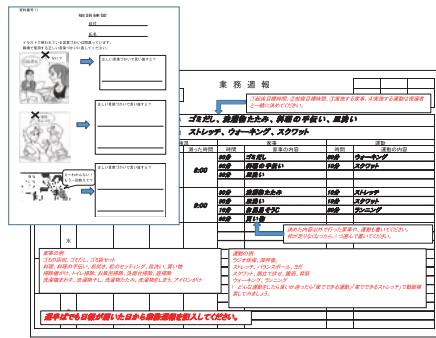
ピヨピヨおうちえん両園の在宅支援の取り組み

マネジャー 大上 茂樹

④ 徐々に訪問が許される場所が増えてきましたので、早く皆さんに直接お会いしたいです。

スで、なんとか順応しようとして苦勞されているお話が多く聞かれました。

緊急事態宣言中はメンバーは自宅待機となり、いつでも業務に復帰できるように、体調を整え生活リズムを崩さずに生活し、更に業務に復帰した際に更に自分の力を発揮できるように、日々の生活を記録する日報や自宅で行えるワークを配布し取り組んでもらいました。(写真を参照)



業務週報やホームワークを配布

当事業部は、顧客企業の三井不動産リアルティ株式会社様へ訪問し、障害のある社員（以下メンバー）へサポートを行っております。

SDGs推進室

室長 渡邊 菜都

をたくさん入れてお届けしました。

在宅勤務の間に、保育者は手作りおもちゃを作り再開後の保育環境を整える準備をしました。



リモート会議の招集・運営を実施

6月2日から業務が再開してからは、日々の体調の確認、消毒や密を避ける取り組みを行い感染拡大防止に取り組んでいます。

法人本部では、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、厚生労働省や東京都福祉保健局から発信される事務連絡や通達を、各事業部に周知してきました。緊急事態宣言が発令された後は、事務所での三密を避けるため、一部自宅勤務や勤務時間をずらした勤務体制を取りました。また、マネジャー会議や全体職員研修等をリモート化し、ZOOMによる遠隔開催を実現しました。テレワーク環境の構築についても、助成金を活用しながらこれを実践していきます。

法人本部

事務局長 中島 學

法人見学ツアーについて

日程：7/30・8/20・8/27（すべて木曜日）
 時間：10：00～12：30
 集合：阿佐谷福祉工房（杉並区天沼1-15-18）

※ツアー開催の有無やご参加については、下記にご連絡の上、必ずご確認ください。

電話：03-3392-7346
 本部・採用担当 山本義彦まで

いたる広報委員

発行責任者＝谷山 哲浩
 社会福祉法人いたるセンター
 〒167-0032
 東京都杉並区天沼1-15-18
 TEL：03-3392-7346
 FAX：03-3391-8039
 Eメール：info@itarucenter.com
 HP：http://www.itarucenter.com/
 発行日/2020年7月15日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。

Instagram PLAIN ART展について

イタル成城では、毎年世田谷美術館にて「PLAIN ART」展を開催してまいりましたが、今年は新型コロナウイルスの影響により、残念ながら中止となりました。しかし、ご利用者様の作品発表の機会が無くなってしまふのは非常に残念ということで、オンライン上での美術展示企画をNECグループ様と共同にて行う運びとなりました。現在、Instagram上で「未来の宇宙」展を開催中です。是非とも以下にアクセスして、カラフルな「宇宙」をお楽しみください。

イタル成城&NECグループ 未来の宇宙プロジェクト展

会期 | 2020年6月22日(月)～
 主催 | 社会福祉法人いたるセンター
 イタル成城 NECグループ
 東京ボランティア・市民活動センター
 協力 | TVACプロボノチーム
 http://www.instagram.com/plain_art.2020

未来の宇宙

ITARD SEIJO ART WORKSHOP
 DIVERSITY & INCLUSION

イタル成城 & NECグループ
 未来の宇宙プロジェクト展
 2020年6月22日(月)～7月7日(火)
 Instagramにて随時公開

PLAIN ART 2020